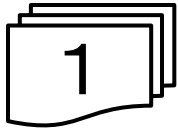


平成24年度
岡山県学力・学習状況調査

調査問題を活用した授業改善のポイント

岡山県教育庁指導課

国語



授業改善のポイント

- ①つけたい力を明確に
- ②つけたい力にふさわしい言語活動の設定・指導過程の構築
- ③具体的な手立てを
- ④系統性を踏まえた授業づくり

国語の問題 4

(2) この文章を初めて読んだときに生徒が書いた次の感想文を
読んで、あとの問いに答えなさい。

ゆうこ

少年は、母親が退院する日に河野さんの運転するバスを待って、「ありがとうございます」と書いた回数券を運賃箱に入れていました。はじめの頃と比べて、少年の河野さんに対する思いが変わっていると思いました。

③ ゆうこさんの感想に、――部②「少年の河野さんに対する思いが変わっていると思いました」とありますが、ゆうこさんは次のように、文章中の表現に注目して、少年の河野さんに対する思いをノートにまとめていました。アとイにあてはまる内容を、それぞれ書きなさい。

③②

文章中の表現	少年の河野さんに対する思い
運賃箱の前まで来ると、運転手が河野さんだと気づいた。それでまた、悲しみがつづいた。 (七ページ、上段五～六行)	少年は、河野さんのことを ア
バス停に立って、河野さんの運転するバスが来るのを待った。 (八ページ、上段十二行)	← 思いの変化 → 少年は、河野さんのことを イ
目は合わない。それがちよつと残念で (八ページ、下段三行)	
回数券に書いた「ありがとうございます」 (八ページ、下段八～九行)	

◆ 問題の概要

読み取ったことをもとに自分の考えを書く記述式問題

◆ 正答例

ア好きではない。
イやさしい人だと思おうようになり、感謝の気持ちを持っている。

◆ 出題のねらい

文学的な文章において、登場人物の心情や場面についての描写をとらえたり、主人公の心情の変化について自分の考えを書いたりすることができかどうかをみる。

①つきたい力を明確に

児童生徒に、どのような読む能力を育成するのか？

○実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること

《中央教育審議会答申（平成20年1月17日）・国語科・改善の基本方針》

国語科の授業だけではなく、子どもの実生活における読書や、各教科等での調べ学習などにも生きてはたらく力

この言葉を押さえさせなければ、読み取ったことにはならない。

指導の
意識改革

学習指導要領・指導事項で
確認を



私たちが日常、小説や資料を読む場合にどのような読む能力を必要とするか、そのために育成すべき能力は？

②つきたい力にふさわしい言語活動の選定・指導過程の構築

国語科における言語活動とは？

ここで話し合う

ここで音読する



といったばらばらの活動ではなく

単元を貫く言語活動を位置付ける

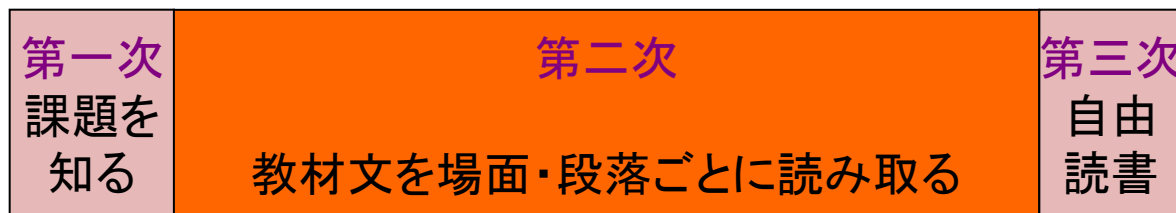
無目的に場面ごと、段落ごとに平板に読み取らせる指導を改善
→児童生徒自身にとっての読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめて交流したりするなど、児童生徒に必要な読む能力を調和的に育成することが重要

(「言語活動の充実に関する指導事例集」)

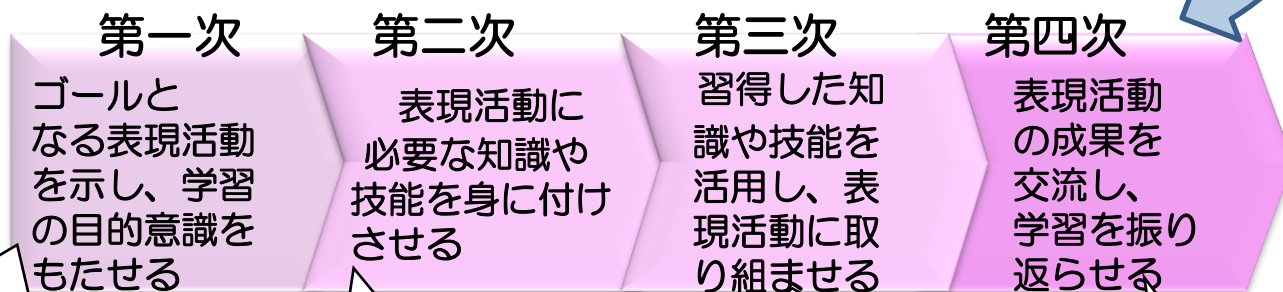
②つきたい力にふさわしい言語活動の選定・指導過程の構築

指導過程の構築

これまで **パターン化された指導過程**



言語活動の位置
づけが指導過程
を変える!!



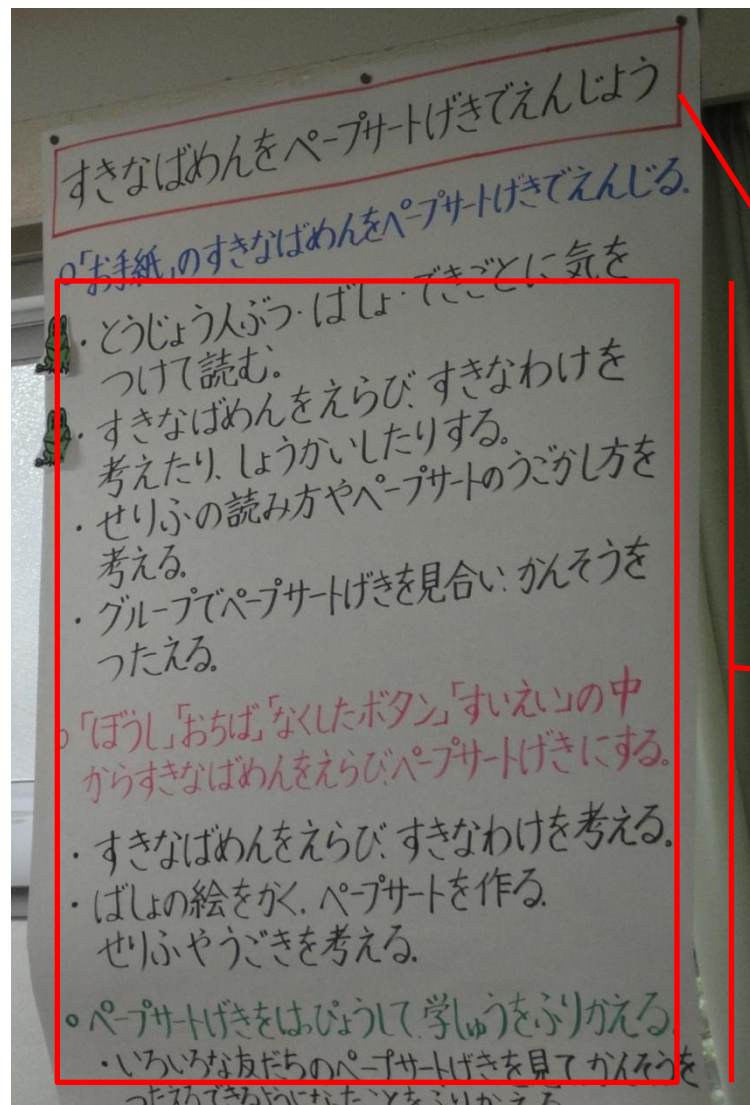
目的の明確化
学習意欲の喚起

主体的な学びの創造
言語活動に必要な言語能力の育成

第二次で習得した
知識・技能の活用

身につけた知識・
技能の振り返り

②つけたい力にふさわしい言語活動の選定・指導過程の構築



つけたい力:

場面の様子を、登場人物の行動を中心に想像して読む

言語活動:

お気に入りの場面をペープサートで演じる。

指導過程:

- ①単元の第一次、第二次、第三次を通し、一貫して「場面の様子を人物の行動に着目して読む」ことを位置付ける。
- ②第二次においても「自分の好きな場面」を選ぶ意識をもたせる。
- ③第二次の段階から「演じる」ことを位置付ける。

③具体的な手立てを

登場人物の気持ちの変化を、叙述を基に想像して読む

回数券に書いた「ありがとうございました」 （八ページ、下段八～九行）	目は合わない。それがちよつと残念で （八ページ、下段三行）	目は合わない。それがちよつと残念で （八ページ、下段三行）	運賃箱の前まで来ると、運転手が河野さんだと気づいた。それでまた、悲しみがつのつた。 （七ページ、上段五～六行）	文章中の表現
イ	少年は、河野さんのことを	← 思いの変化	ア 少年は、河野さんのことを	少年の河野さんに対する思い

叙述を基に
＝根拠を明らかにして

本文中から、少年の河野さんに対する思いがわかる叙述を探してみると・・・

児童生徒が、文章中の表現に着目するための手立ての工夫を。

・ノート
・ワーク
・シート
等

③具体的な手立てを

登場人物の気持ちの変化を、叙述を基に想像して読む

叙述を基に想像

あなたは、少年の河野さんに対する思いが変わったのは、いつだと思いますか？

私は、この叙述から、少年は、河野さんのことを……と思います。

私は、この叙述から、少年は、河野さんのことを……と思います。

私は、この叙述から、少年は、河野さんのことを……と思います。



バス停に立って、河野さんの
運転するバスが来るのを待っ
た。
（八ページ、上段十二行）
目は合わない。それがちよつ
と残念で
（八ページ、下段三行）
回数券に書いた「ありがとう
ございました」
（八ページ、下段八～九行）

③具体的な手立てを

叙述を基に
＝根拠を明らかにして

叙述を基に想像して

どうしてそういう
読み方をしよう
と考えたの？

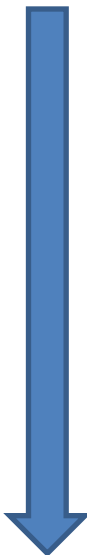
それはね・・・

《ワークシートの工夫》

④系統性を踏まえた授業づくり～学年間／小・中の接続～

学年の発達段階・学習の系統性を踏まえた授業づくりを

(例)人物の把握の発展系統(学習指導要領から)



小学校	第1・2学年	人物の行動
	第3・4学年	人物の性格や気持ちの変化、情景
	第5・6学年	人物の相互関係
中学校	第1学年	人物の描写に注意して
	第2学年	人物の言動の意味を考え
	第3学年	人物の設定の仕方をとらえ

「自分の考え」をもつために ～「C読むこと」の場合～

《課題》自分の読みがなかなかもてない。

低学年: 「自分の大好き」、「お気に入り」を意識して読む。



中学年: 「分かったこと」だけでなく「分からないこと」は何か、気になること、疑問に思うことを意識して読む。



高学年: 自分の考えや立場をはっきりさせて読む。



中学校: 評価、批評しながら読む。

子どもが主体的に読む能力を身につけるために・・・
学習過程に、子ども自身の「大好き」「はてな」「伝えたい」
を生かす授業づくりを。